



◎定款變更認可

去七月五日開會の第二十回定時會員總會に於て満場一致を以て決議したる定款變更の件は認可申請中の處左の通木戸内務大臣より認可せられた。

内務省東土第一二三號

社団法人 道路改良會

昭和十四年七月十三日附申請定款變更ノ件認可ス

昭和十四年八月四日

内務大臣候爵 木戸幸一

(備考) 第七條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ内務省土木局長ノ職ニ在ル者ハ特別會員トス

第十五條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

◎早月橋改良工事概要

但シ第七條但書ニ該當スル特別會員ハ其ノ在職ノ間之ヲ理事トス

富山縣土木部道路課

路線名国道十一號線、架橋位置下新川郡下中島村、中新川郡早月加積立會、河川名早月川、橋長三二七・五〇米、有効幅員七・五〇米、荷重第二種、構造大要橋種鐵筋コンクリート三徑間連續桁橋、最大支間二三・〇米、主桁桁數四本通り、間隔二・〇米、橋脚ライメン形鐵筋コンクリート、同上基礎圓形井筒内徑二・二米、深九・〇米、二基建、橋臺重力式混凝土橋臺、橋面鋪裝碎石混凝土及膠石、高欄鑄鐵格子、取付道路延長七八〇・〇米、有效幅七・五米、使用材料早強セメント八、三三六・〇袋、井筒に使用、普通セメント二七、二八一・〇袋、橋體鐵筋總數量二六五・〇噸、同上平米當り〇・一〇八噸平米、橋體ノミ、橋梁鐵材總數量四〇二・〇噸、同上平米當り〇・一六三噸平米、上下部工鐵筋

及支承金物類を含む、橋體用混凝土總數量二、〇六九・〇立  
米、同上平米當り〇・八四立米%平米、桁、床版、地覆等に

して鋪裝を含まず、工費上部工費、工費  
一〇八、二〇五、〇〇圓(五七・七%)、

同上平米當り四四・〇五圓%平米、下部

工費工費七九、一五九、〇〇圓(四二・三

%)同上平米當り三二・二〇圓%平米、

取付道路工費工費三九、一八一・〇〇圓

同上平米當り五〇・二〇圓%米用地補

償費は含まず、總工事費工事費二五四、

四〇〇・〇〇圓同上平米當り一〇三・五

七圓%平米以上工費に雜工事費、雜費、

機械器具費、用地費、補償費等ヲ含ム。

事業名第二期橋梁改良事業、工事執行

方法富士縣直營、工事着手及竣功工事

着手昭和十一年五月十日、工事竣功昭和十四年八月三十一

日。

○内務省土木試驗所談話會

第一九四回技術談話會話題

時日 昭和十四年七月二六日(水曜)午後

一時半——四時

場所 本郷區駒込上富士前町二六 内務

省土木試驗所講堂

一、路面安定工法の比較試驗

(二〇分) 山田 技師

二、瀝青乳劑臨時規格案

(四〇分) 西川 技師

三、防波堤に作用する波の壓力(第一

報) (二〇分) 松尾 技師

四、百間川分流點に關する模型實驗

(中間報告)

(二〇分) 横田 技師

五、粘土の防水的性質に關する土質力學的研究(第一報)



(三〇分) 星 埜 技師

時日 昭和十四年八月二十二日 午後一時半より

場所 本郷區駒込上富士前町二六 内務省土木試驗所講堂

○北支子牙河水系の水運と  
津石運河計畫に就いて 約二時間半 青木 技師

### ◎後藤伯記念市民賞論文募集

財團法人東京市政調査會に於ては第十一回懸賞論文の募集を發表した。即ち應募資格は東京市在任者に限るが町會その他團體として應募してもよく長短隨意(但し四百字詰原稿用紙三十枚を超えないこと)締切は九月三十日、審査員は同會理事堀切善次郎、同法博岡實、同工博佐野利器、貴議田澤義輔の四氏で賞金は一等百五十圓一人、二等百圓二人、三等五十圓三人。なほこの市民賞論文は同會創立の際顧問として招聘した米國市政學の權威チャールズ・エー・ピアド博士の意思に基き同博士寄贈の基金により同會創立者で且その會長だつた故後藤伯の公共奉仕に對する記念として大正十三年以來募集されてゐるもの。

### ◎近刊圖書雜誌

○土木試驗所報告 (第四六號)

○道路用アスファルト乳劑臨時規格 (案)「内務省土木試驗所」

○國際觀光 (第七卷三號夏季號)

○土木工業 (第一卷七號)「土木工業協會々報」  
(瀧山與氏)我國隧道工事の進歩

○技術評論 (第十六卷七號)

(佐々木卓夫氏)科學政策と技術者運動

○乗合自動車 (第十三卷暑中號)

○東大陸 (八月號傳記特輯)

○觀光聯盟情報 (第三卷五、六、七號)

○電氣通信學會雜誌 (第一九六號)

○鐵道軌道經營資料 (第二十二卷七號)

○石油時報 (七、八月號)

○土木建築工事畫報 (第十五卷八號)

○警察協會雜誌 (第四七〇號第四七一號)

○清和 (第六卷七號)

○セメント界彙報 (第三七七號)

(内藤亮一氏) 神戸市防空模範街區及防火改修事業計畫に就て)

○企畫 (第二卷五、六號)

(工學の諸傾向と國策) 6)

○土木學會誌 (第二十五卷七、八號)

○法律時報 (第十一卷八號)

○水利と土木 (第十二卷八號)

(土木費豫算に就て)

○都市問題 (第二十九卷二號)

○紀元二千六百年 (八月號)

○新生北支の建設現況 (華北事情案内所)

○自警 (八月號)

○技術評論 (第一六卷八號)

(三輪眞吉氏) 事變下に於ける陸上交通の諸問題)

○道路 (第一卷四號)

(西川榮三氏) 道路工事用材料の臨時規格設定に就て)

當季漫吟 野 狐 禪

窓の風絹糸草に日照雨かな  
 新涼の天空鳩を放ちけり  
 汗冷ゆる時の眞晝富士低し  
 氷水レモンの色に香に涼味  
 炎天や蚯蚓からびて蟻群るゝ  
 炎天や鳴門の渦の大うねり  
 何處までも駄馬追ふ蠅や炎天下  
 死蛇の眼の尙生きてあり炎天下  
 川尻へ滿てし水母や土用波  
 富士を打つ土用の波や三保晴るゝ  
 女客を夕顔の門に送り出でゝ  
 ゆらゝと夕顔ほどけ月の前  
 夏シャツやノーネクタイの胸あけて  
 夏シャツやアルバカの上衣掻い抱き  
 夏シャツや人がましくも猿の曲